「九州の未来力２０３０」第３回会合の概要

１．開催日時：平成２６年５月１５日(木)１５時３０分～１８時００分

２．開催場所：福岡財務支局　会議室
　テ ー マ：「東九州自動車道の開通と九州経済」
　　「九州におけるＰＰＰ／ＰＦＩの展望と意義」

３．議事概要
⑴　報告
　「我が国の経済情勢等」（福岡財務支局長　高木　隆）

⑵　プレゼンテーション
①「東九州自動車道の開通と九州経済」
　（九州経済調査協会調査研究部主任研究員　大谷　友男）
＜要旨＞
　東九州自動車道が全面開通すると、九州に循環型の高速交通体系が確立し、全区間で３時間弱の短縮効果がある。加えて、本州と東九州（大分県、宮崎県）が直接繋がり、さらに、大分を結節点とした四国経由による関西までのネットワークの強化も期待できることから、九州におけるヒト・モノの流れが大きく変わる可能性がある。
　一方で、宮崎県が実施した全面開通に関する企業アンケートによると、開通には関心を持っているものの、具体的な対応策を考えている事業者が極めて少ないということが浮き彫りになった。
　東九州自動車道の開通効果を高めるためには、沿線の地域・企業はもとより、九州全体で国内外の需要を呼び込むチャンスと捉えて取り組むことが課題となっている。

②「九州におけるＰＰＰ／ＰＦＩの展望と意義」
　（九州大学産学連携センター教授　谷口　博文）
＜要旨＞
　世界的に広くインフラ整備の手法として活用されているＰＰＰは、日本においてもＰＦＩとして制度的に整備され、１５年近い実績がある。
　従来は、ハコモノ整備が中心であったが、今後、地域の活性化あるいは経済力を引出すためには、ＰＦＩの本来の目的である民間の資金・経営力・ノウハウを活用するコンセッション方式の積極的な導入が必要である。
　そのためには、人材・組織の育成、制度の見直しが必要であり、最も重要なことは、パブリックセクターのガバナンス・経営能力を改革することである。

（注）・ＰＰＰとは、Public－Private　Partnership をいう。

・ＰＦＩとは、Private－Finance　Initiative をいう。

・コンセッション方式とは、施設の所有権を移転せず、民間事業者にインフラ運営に関する権利を長期間にわたって付与する方式をいう。

⑶　意見交換（メンバーからの主な意見。一部、複数人の意見を集約）

（東九州自動車道関連）

・　道路や鉄道だけでなく空港や港湾も含めて、今あるネットワークをきっちり使い倒すという発想が必要である。

・　北九州市から南に延びる軸を一つの経済圏と考え、その中にある道路と空港を一体的な物流網としてフル活用し、如何に輸出や観光などに繋げていくのかという発想が必要である。

・　東九州自動車道の開通が何かをもたらすのではなく、各地域がそれを活用し如何にアピールするかである。

・　「九州を魅力的なアイランド」としていくためには、例えばアジアや欧州の富裕層がリピーターとして戻ってくるような新たな取組みが必要である。

（ＰＰＰ／ＰＦＩ関連）

・　今後の公共インフラにおいて、公共セクターのガバナンスを発揮していくためには「選択と集中」が必要であり、どこを重点的に整備し、一方ではどこを整備しないかという取捨選択も必要となる。

・　公共インフラの整備において、行政がどこまでやるのか、民間にどの事業をどこまで任せるのかについて考え方を整理する必要がある。

・　個々のＰＦＩ等の活用も大切であるが、廃線となった高架鉄道橋を再生することで、周辺一帯の魅力が増したニューヨークの空中公園ハイラインのように、大きな仕組みで都市やエリアを再構築する中で、ＰＦＩ事業の一つ一つも生きてくるというビジョンも必要ではないか。

・　ＰＰＰで民の経営力を活用するには、公共セクターが資金を出さないかわりに、事業の性格に応じ適切にリスク負担するなどによって、民の経営力を引き出す仕掛けが必要である。

・　複数のコンソーシアム（SPC）が参入できるような魅力あるスキームを作ることが重要であり、地域自らが将来のビジョンを描けるかどうかである。それができれば地域全体の経済の活性化に繋がるものと考える。

４．次回会合

日　時　：　平成２６年９月１７日(水)

テーマ　：　「九州観光のポテンシャルと未来について（仮称)」

以上